



より良い医療を県民に提供するため、 公立病院が一丸となって医療DXを推進！

POINT：公立病院が率先して電子処方箋を導入することで、医療DXを推進！

公立病院の電子処方箋対応を進めることで、周辺施設への普及も進め、より良い医療を持続的に提供できる環境の整備を目指す。

【参考】岩手県

岩手県の現状

- 医療分野での課題のひとつとして、岩手県は人口10万人辺りの医師数が全国の中でも低い水準であり、医療分野での大きな課題である医師の偏在や特定診療科での医師不足が際立っている。
- 現在の医師数で県全体の医療をカバーするためにも、医療従事者の負担軽減や業務の効率化、患者が遠隔で診療を受けられる体制の整備が求められている。

県立病院の動き

- 医療DXに力を入れ、岩手県立病院等事業運営方針においても最重点として取り組む事項の一つとして「質が高く効率的な医療の提供に向けた医療現場のデジタル化の推進」を掲げた。
- 周囲の医療機関等の電子処方箋の導入率が低いことやHPKIカード発行の遅れなどもあり、当初は早期導入は難しいのではないかと考えられていた。
- しかし、岩手県立病院全体の会議において、多くの病院長から「県立病院として国や自治体の施策に協力し率先して医療DXに取り組むべき」との意見が出された。
- 令和5年度中に全ての県立病院（20施設）で電子処方箋の運用を開始。



多くの処方データが集積されることで、より安全に処方・調剤できるようになり、将来的には、電子処方箋の活用による災害時対応、へき地医療などへの効果も期待しています。

岩手県立中央病院長 宮田 剛
(全国自治体病院協議会常務理事 兼 医療DX委員会委員長)

『令和6年度 岩手県立病院等事業運営方針』にて、最重点として取り組む事項に「質が高く効率的な医療の提供に向けた医療現場のデジタル化の推進」を掲げる

令和6年度 岩手県立病院等事業運営方針

令和6年度（2024年度）岩手県立病院等事業運営方針
令和元年度（2019年度）から令和6年度（2024年度）までを対象期間とする「岩手県立病院等の経営計画（2019-2024）」では、次の4つの基本方針を掲げ、県民への適宜な医療の持続的な提供のため、様々な取組を進めることとしています。

（基本方針）

- 「心のかよう、患者中心の医療の展開」〈患者本位〉
- 「職員が働きがいを持つ職場づくり」〈職員重視〉
- 「健全経営に向けた経営の効率化」〈不断の改善改善〉
- 「地域と一体となった医療の提供」〈地域との協働〉

令和5年度（2023年度）においては、新型コロナウイルス感染症から県民の命と健康を守るため、県立病院間のネットワークを活用しながら必要な医療を適切に提供するとともに、県民、患者や職員にも魅力ある県立病院を創出し、医師不足解消に向けた医師の偏在・偏務の解消、働き方改革の推進、医療現場のデジタル化の推進などに取り組んできました。

令和6年度（2024年度）は、新型コロナウイルス感染症の感染への対応への対応に伴い、患者診療の充実を図るとともに、新しい経営状況の中、収支改善が急務であり、診療に際する3つの基本方針に沿った取組を推進するとともに、全職員一丸となって取組を進めてまいります。

令和6年度（2024年度）に取組む主要な取組の推進

- 県立病院間、他の医療機関及び介護施設等を含めた役割分担と地域連携の推進
 - 岩手県立中央病院（2024-2025）を軸とした地域医療連携の推進
 - 国庫内への医師の派遣、支援体制の構築等による一時的な支援
 - 岩手県立中央病院、医療法人の連携や地域医療ニーズを踏まえた関係機関、関係機関との連携
 - 地域における役割分担と医療、介護、福祉機関間の連携強化
- 良質な医療を提供できる環境の整備
 - 新型コロナウイルス感染症の感染への対応に伴う患者診療の充実
 - 医療安全対策の徹底・強化
 - 関係機関との連携、診療の効率化と医療の提供
 - 質が高く効率的な医療の提供に向けた医療現場のデジタル化の推進
- 医師不足解消に向けた医師の育成・確保と医師の負担軽減に向けた取組の推進
 - 医師の時間外労働規制（第4号）への円滑な対応
 - 診療報酬（第4号）の適正な設定に向けた取組の推進
 - 診療報酬の適正な設定

1

電子処方箋は医療DXの先駆けです。今後医療DXがさらに促進されることを見据え、積極的な導入をお願いします。